

CASBEE[®] 新築 [簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築 (簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.8)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)AKP新築工事	階数	地上2F
建設地	京都府相楽郡精華町精華台1-5	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条地域	平均居住人員	70 人
気候区分		年間使用時間	4,160 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年3月 予定	評価の実施日	2010年7月8日
敷地面積	33,472 m ²	作成者	栗木 義明
建築面積	15,712 m ²	確認日	2013年8月1日
延床面積	17,755 m ²	確認者	栗木 義明



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★ ☆☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 89%

③上記+②以外の 89%

④上記+ 89%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	周囲に緑地を十分確保し、地域の植物の植栽に努めた。周囲の環境からも外観はできるだけ工場の部分が隠れるような計画とするため、二階の事務所部分の背後に工場部分を配置することとした。	その他 0
Q1 室内環境	事務所部分は外壁沿いに配置し、背後の工場と事務所の防火区画を利用して、事務所部分の良好な環境を確保した。	Q3 室外環境 (敷地内) 周囲に十分な緑地を確保した。公共道路から建物までの距離を十分確保した。(40m以上)
LR1 エネルギー	必要最小限の計画とした。	LR3 敷地外環境 緑地面積の確保。境界からの建物までの距離確保。屋外機の隠べい、防音配慮
Q2 サービス性能	建物内の段差をなくし、将来的に身障者であっても勤務可能な環境を維持。事務所部分、工場部分ともに将来の増員、レイアウト変更に対応できるように、十分なスペースと大きな部屋割りとした。	
LR2 資源・マテリアル	特には配慮していない。(可燃物を使用できる範囲が少ない。上水の使用も少ない。)	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される